Rotary Club of Hiroshima New Generation

広島新世代ロータリークラブ会報

国際ロータリー第 2710 地区

2025-2026 年度 Vol. 14

2026 年 5 月 28 日（木）第 16 回例会　【対面式 ZOOM ハイブリッド例会】

会 長 時 間

ロータリーは自己研鑽の場です。みなさんこんばんは。

今年度もあと 1 ヶ月少しとなりました。当クラブは 9 月 1 日に RI に加盟し 9 ヶ月が経過し、今年度は 10 ヶ月の活動となります。この 10 ヶ月は、ロータリーについて知っていただく、学んでいただくという大目標だけを掲げ、会長としてぶれずにやってきましたが、活動が少なく、座学が多い期間でしたから、皆さん、きっと、とても面白くなかったのではないでしょうか。会長時間や会長卓話の時間をいただいた時は、とにかく皆さんにとって必要なロータリー情報を提供しなければと、やってきましたが、本当はもっと他に話したいことがありました。私にとっても、非常に面白みがなく、として予想外に多難な一年弱でした。

しかし、それでも、とにかくロータリーを学んでいただくことが良いクラブの大前提であるとの信念から、この 9 ヶ月お話をしてきました。

以前申し上げましたが、ロータリークラブはそもそも会員の皆さんのためになる、これがロータリーの本質です。そしてそれは、質の高い「クラブ奉仕」によって保証されます。「クラブ奉仕」については 3 月 5 日例会の会長卓話でお話ししました。会員は、良いロータリアン、良い人間、良い職業人となるために、ロータリーの示してくれる指針に従い自己研鑽を行う、そして、他の会員の自己研鑽を助ける。クラブは会員の自己研鑽を最大限サポートする。これがロータリークラブです。

当クラブは、このような「クラブ奉仕」を重視し、会員の為になるクラブとして設立しました。これを軌道に乗せ、また、将来にわたって守っていく体制を早期に固めなければいけない。そのための重要な期間が今年度です。

ロータリークラブの中には、会員に娯楽を提供する事が面白さの原点だと考え、親睦という名の下に趣味や飲食の機会を提供することが最重要であると考えて運営されているクラブもあります。すべてのロータリークラブは自治権が認められ、RI は命令することはできないし、また、他のクラブと横並びである必要もありません。

このような自由な環境において、当クラブは「クラブ奉仕」を重視する道を選んで発足しました。皆さんにお渡しした資料に、こう書いています。

「ロータリーは人生（生き方）を変える力があります。しかし、残念ながら、長い歴史を持つ既存ロータリークラブの多くは、世の中の変化、価値観の変化などに十分対応できず、会員はロータリーが持つそのような力を知らないしその利益を享受できていません。日本のロータリークラブ誕生からの歴史を見ると、ある程度致し方ないことなのですが、今や日本のロータリークラブのほとんどが、地域社会の有力者の単なる親睦サークルと化してしまっていて、その結果、世間からは、ロータリーは金持ちの集まり、偉い人の集まり、などという大きな誤解を抱かれるに至っています。

そこで、ロータリークラブ本来の「人を育てる」という機能を重視した新しい形態のロータリークラブを設立いたします。既存の多くのクラブに比べ例会頻度が少なく、非常に少ない会費で入会可能で、オンラインで例会参加もできます。当クラブに入会されたら、人間として、職業人として（職業がある方）大きく成長されることをお約束いたします。」

また、こうも書いています。

「1905 年のロータリー誕生から約 20 年間で、ロータリーは今まだ健在である奉仕理論を中心とする「ロータリー哲学」を完成させました。当初、ロータリー哲学は、「ロータリ－道徳律」や「ロータリー通解」などの解説書類によって、各ロータリークラブにおいて会員に伝達され、会員は自らが良質なロータリアンになるために積極的にそれらを学んだと思われます。しかし、国際ロータリーは、時代の要請の変化に適合するために大規模な奉仕の実践に傾倒するようになり、ロータリー哲学の伝承に非常に消極的になっています。その結果、各クラブにおいても、良質なロータリアンを育成するということに対して、それを面倒なこととして軽視し避ける傾向が強まっています。

世界中で大規模奉仕を提唱する国際ロータリーは NPO 化したと言われますが、このような変化に対しては、ロータリアン及びクラブは全面的に協力しながらも、一方で、良質なロータリアンを育成するという、本来はクラブが担うべき役割を、しっかりと継続していかなければなりません。

ネット検索するとわかりますが、ロータリークラブは、金持ちの集まり、偉い人の集まり、というような全く誤った印象を持たれています。これは、長年、ロータリアンが、自己研鑽を積んでよい人間になるのがロータリーの本質であるという部分をないがしろにし、単に地域社会の有力ビジネスパーソンの社交場という要素を重視してきた結果です。これを否定するものではありませんが、そのような役割は既存クラブにお任せして、しっかりとロータリーの本質を守る、素晴らしい人間育成の場という本来ロータリークラブが持っている役割を果たすクラブの設立が急務です。」

この基本構想は、今も、それからも、決してぶれることがあってはなりません。もしぶれてしまったら、その時当クラブは存在意義、強み、独自性、すべてを失います。

ですから、もし、皆さんの中にロータリークラブは面白くないと思われている方がいらっしゃったら、申し上げてきたいのは、当クラブは娯楽や親睦を目的とはしておりませんので、いわゆる、遊ぶこと、娯楽、そういうものは当クラブにおいても当然存在するのですが、それを第一義としてクラブに求められると、それはかないません。ロータリークラブの面白さは、今年度お伝えしたようなロータリー情報の中、そしてそれを適用するご自身の人生の中から、見つけていただくほかないのです。そしてロータリークラブの面白さは、先ずロータリーをしっかりわかることから始まります。それゆえ、皆様には口酸っぱく、とにかくお伝えしたことを見直していただきたいと申し上げているわけです。

以前、土肥ガバナーが当クラブを訪問され、「クラブはとにかく仲がよければいい」とご挨拶の中でおっしゃったことがあります。私も「仲が良い」事は目的ではないが結果として当然実現できることだと思っていますので、その例会の会長時間で、ロータリーの目的は親睦ではなく、自己研鑽と、そこから生まれる人に優しくする心の放流であると申し上げました。その土肥ガバナーが後日、お詫びのメールをくださいました。「会長の想い、クラブの創立理念を無視して、軽率に仲が良ければいいなどと発言して、たいへんに申し訳なかった」という内容です。私は土肥ガバナーの真意が理解できておりましたから特に失礼などとは思いませんでしたが、さすが土肥ガバナーです。親睦、クラブの本質、ロータリーを学ぶこと、そういうことに対する高い意識、いつも考えたいらっしゃることを感じ、大変頼もしく思いました。

次年度からは、いよいよ対外的奉仕活動を活発化していきます。しかし、その原点は、「クラブ奉仕」という場所で行う自己研鑽から生まれる、人に優しくする心、これが全ての始まりだということ、このこと

は何度も申し上げてきましたが、どうか忘れることなく、「クラブ奉仕」にクラブ活動の面白さを発見していただくよう、お願いをいたします。

活発なクラブ奉仕、会員の皆さんの自己研鑽、それを支える健全なクラブ運営、そういう基礎的な基盤を何とか今年度で確立させたかったのですが、難航しており、次年度も引き続き地道に動いていくしかない部分はあります。シンプルで誰でも実行可能な長続きする必要最低限のクラブ運営の仕組みは残念ながらまだできていませんし、皆さんに「クラブ奉仕」について十分にお伝えできていません。それは創立会長として責任を持って進めていきます。それが、当クラブが未来に繋がる発展をしていくための条件であり、創立会長の唯一の役割だと思っています。

クラブがことさらに会員数などの規模を追いかけるのではない、経済力や知名度と言った社会のものさしをクラブに持ち込むことがない、会員がもっと良い人間になろうと努力している、そこに面白さを感じている、こんなクラブになるよう、引き続き最大限努力します。

最初に申し上げた事ですが、皆さんがつけている徽章は、「誇りのシンボル」と言います。皆さんは何を誇りますか、と申し上げましたが、誇るのは、皆さん自身です。どうか、誇れる自分になって下さい。その機会を提供できるのは、ロータリークラブです。

最後に、自己研鑽と言っても何をすればいいのかわからない、という言葉を聞きましたので、ひとつ具体例をお伝えしておきます。

まず、前日申しましたが、四つのテストを日常生活に適用して下さい。そのうち、全部同時に達成できない状況もあることがわかります。その時は、考えて下さい。どうすればいいか。その考えることが皆さんを成長させます。

次に、これも以前申し上げましたが、このような人間になることを目指して下さい。もしそうでない場合は、大反省して自己変革に励んで下さい。だからといって、それは自分に課すルールであり、他人がそうでなくても決して他人を責めたり悪く思ってはなりません。それがロータリーという世界です。

では、具体的に申し上げます。

・自分の常識は他人の非常識。多様な考え方を認め、自分の考えに固執しないようにしましょう。

・人間間の摩擦は人の世の常。問題が起こったら直接本人と話しましょう。しかし、とことん話しても落とし所が見つからない場合も当然あります。そういうときは、喧嘩になる前に、「まあこのへんにしておこうか。これからもよろしくな」と切り上げることも大切です。

・他人を悪口や陰口は決して言わない人間になりましょう。問題があるのなら本人に直接伝えましょう。これがロータリーです。

・一般社会では、お金持ち、社会的地位が高い方、規模が大きな会社を経営している方、こういう方々がよしとされますが、みなが平等なロータリーでは何の意味もありません。クラブの仲でそのような方々を特別扱いしたり、会話の中で、「あの人はすごい」というような発言をしたりして、クラブに一般的尺度を持ち込んではいけません。

これらはほんの一例です。実は、私自身が、こういうことを自分に課し、その結果、短期で怒りっぽかった自分が変わったという経験を持っています。これがロータリーの素晴らしさだと信じています。皆さんにも、同じように、自己研鑽を積んで，もっともっと良い人間になっていただきたい。そう持っています。今年度皆さんにお伝えしたことを。どうか見返して下さい。そして、みなさんそれぞれの自分に課すルールを早く見つけて下さい。そこからきっとロータリーは面白く意義あるものに変わります。

ロータリーとは自分の生き方です。少しづつでいいですから、ご自身の生き方を見つめ直し、よりよい人間にかわっていこうではありませんか

以上で今日の会長時間を終わります。ありがとうございました。

例　会　次　第

・開会点鐘
・ロータリーソングの唱和　「奉仕の理想」
・来客紹介　RI 第 2580 地区パストガバナー　東京東江戸川ロータリークラブ　嶋村文男さん
東京西ロータリークラブ　鈴木隆志さん
RI 第 2710 地区パストガバナー　広島西ロータリークラブ　諏訪昭登さん
元ローターアクト　小柳宜久様
・会長時間
・幹事報告
・出席報告
・委員会報告
・例会プログラム
来賓卓話　「五大奉仕の整理と国際奉仕の焦点」
・閉会点鐘

幹　事　報　告

- 令和 7 年青森東方沖地震災害支援金として地区総額 2,652,151 円が集まり、当クラブも 1 人 1,000 円の寄付に協力。謝意が伝達された。
- 次年度の地区大会は 2026 年 10 月 23～25 日開催予定。
- 山越千秋氏が仕事都合で退会、メッセージ代読。
- 地区大会仮登録のクラブ内回答期限を 2026 年 6 月 11 日に設定。

出　席　報　告

本日の例会　出席会員数：　21 名中 13 名（うちオンライン出席者 3 名）【出席率 61.9%】
来賓・来客：　4 名（うちオンライン参加者 0 名）

委　員　会　報　告

なし

同　好　会　報　告

なし

ス マ イ ル BOX

・杉岡英明さん：第 7 回ジーニアスカップ（発達障害児サッカー大会)」協力へご協力、ありがとうございました。2027 年 4 月 2 日開催予定「ジーニアスカッププレミア（世界大会)」への継続支援をお願い申し上げます。

クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー　参　加　報　告

木坂智美さん：

- 奉仕プロジェクト部門、特に青少年奉仕について学習。
- ローターアクト制度のアップデート（2019 年）を共有：
  - 年齢制限撤廃、ロータリーの下部組織から対等な組織へ。
  - 背景：会員減対策、発言しにくさの解消。
- 制度変更に対する懸念：
  - 年齢制限撤廃で若者が年長者に遠慮する可能性。
  - 下部組織関係の解消により支援・運営関係がかえって難しくなる可能性。

青少年育成と利他の精神

- Z 世代は社会貢献意欲がある一方で「自分主義」「時間不足」を感じやすい現状を指摘。
- 効率・生産性偏重の時代に「誰かのため」の利他の精神が希薄化。
- 大人が若者に利他の精神を伝え、ロータリーの奉仕の精神に基づく青少年育成の重要性を強調

ゲスト挨拶

元ローターアクト　小柳宜久様　（ローターアクトの経験と意義）

- 東京ローターアクトに 21 歳で入会し約 10 年在籍、会長・幹事・会計・地区役員等を歴任。
- 職業奉仕の理念に強く共感し、仕事を通じた社会奉仕がキャリアの支えに。
- クラブ方針は様々だが共通の意義は「次世代リーダー育成」。
- 広島でのローターアクト普及と支援に期待。
- 結論: 若年層の実践的学びとリーダー育成に有用で、地域普及が望ましい。

プ ロ グ ラ ム

来賓卓話

RI 第 2580 地区パストガバナー　東京東江戸川ロータリークラブ　嶋村文男さん

4 五大奉仕の整理と国際奉仕の焦点

- 五大奉仕（クラブ・職業・社会・国際・新世代/青少年）を概説。
- 国際奉仕の「国際理解・親善・平和の推進」に焦点を当て、写真事例で具体像を共有。

- 登壇者来歴と障害者支援、インドでのポリオワクチン投与、地域応援の実践を紹介。

- 「奉仕の心」に火がついた原体験として環七のごみ拾いを回想。

国際奉仕事例の共有（[Speaker 9]）

- カンボジア地雷除去（HALO Trust 連携）：資金支援と現地 NGO 協働でクリアランドを地域へ返還。紛争由来の地雷被害軽減に寄与。

- インドのポリオ根絶支援：NID に計 4 回参加。スラム青年への ICT 支援。常在国はアフガニスタンとパキスタン。若手同行で経験継承。

- 米山奨学事業：年間約 900 名の留学生支援。学友ネットワークにより国際理解が深化。「そろばん外交」など循環型支援を実践。

- ミャンマー小学校建設（TT 村）：地区補助金＋チャリティーで資金調達。村人の古材活用と行政教師派遣で 3 校建設。政情悪化下でも食料支援継続。

- モンゴル校舎の水衛生改善：現地・香港クラブと GG で標準トイレを整備（41,010 ドル）。水と衛生分野で学校環境を改善。

モンゴルにおける最新活動報告

- 5/3〜7 に 15 クラブ 26 名でプロジェクトツアーを実施。学校図書館設置の GG を現地クラブと共同実施。

- ドローン血液輸送 GG：東京荒川 RC 主導、約 10.4 万ドル規模。日本製ドローン活用、JICA 事業をロータリーが継承。台湾・鳥取・島根・岡山・長岡・シンガポール等が参画。渋滞による輸送遅延課題の解決を狙う。

- 公衆衛生（歯科衛生）：子どもの虫歯率約 90%の課題に対し、学校内歯磨きコーナー設置を推進。1 箇所約 60 万円、4 クラブで進行中。

- 米山学友会出身者にモンゴル国会議員もおり、日蒙協力深化に期待。新モンゴル学園を訪問し、日本留学希望の生徒と対話。

- 発表者の所感：ロータリーは「人との出会いの場」「人を育て向上させる場」。